

目標Ⅰ 看護の概念及び展開について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
1 看護の基本となる概念	A 看護の本質	1	看護の定義	0	看護学概論 1章1節1項 看護とは (p.20-21) 臨床看護総論 1章2節2項 看護の定義 (p.12)
			役割と機能	0	看護学概論 1章1節2項 看護の役割 (p.22-28), 6節1項 看護に対する社会の要望と期待 (p.55-60) 臨床看護総論 1章3節 看護師の役割 (p.14-17) 看護管理 1章1節2項 日本の社会制度における看護職の位置付け (p.17-18)
			看護の変遷	1	看護学概論 1章5節 看護の変遷 (p.43-54)
	B 看護の対象	5	全体〈whole〉としての人間	0	看護学概論 2章1節 統合体としての人間 (p.70-74)
			成長・発達する存在	0	看護学概論 2章1節4項 成長・発達する存在 (p.74)
			ニーズをもつ存在	1	看護学概論 2章1節3項 動機付けられる存在 (ニードをもつ存在) (p.73-74)
			生活を営む存在	0	看護学概論 2章1節1項 人間の生物学的基盤 (p.70-72), 2節2項 生活者(個人)としての人間 (p.75-76)
			適応する存在	2	看護学概論 2章1節1項 人間の生物学的基盤 (p.72), 4節4項 ストレスを軽減させる看護活動 (p.92-93)
			社会・文化的存在	0	看護学概論 2章2節 社会的・文化的存在としての人間 (p.74-76)
			ライフサイクルと発達課題	1	看護学概論 4章1節 成長・発達の概念 (p.112-115)
	C 健康と生活	3	健康のとらえ方	1	看護学概論 3章1節 健康・病気のとらえ方 (p.96-98) 臨床看護総論 1章2節3項 健康の意味を正しくとらえる (p.12-14) 成人看護学概論 5章1節 主要な健康観 (p.112-115)
			健康のレベル	0	看護学概論 3章2節 健康の諸相 (p.98-100) 臨床看護総論 1章3節3項 健康レベル (p.15-16)
			健康への影響要因	1	看護学概論 3章4節 健康に影響する要因 (p.105-109)
			生活習慣とセルフケア	1	看護学概論 3章4節1項 生活習慣 (p.105-107) 成人看護学概論 12章 セルフケア (p.243-253)
			QOLの維持と向上	0	看護学概論 2章3節1項 対象理解と看護アセスメントの枠組み(視点) (p.76-77) 成人看護学概論 5章3節6項 Quality of Life (QOL) (p.120)
			生活の場	0	看護学概論 2章2節1項 個人, 家族, 集団(グループ), 地域社会 (p.75)
	D 看護における倫理	3	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	0	看護学概論 6章3節1項 世界人権宣言 (p.154)/9章1節4項 法の形からの分類 (p.210)/資料「世界人権宣言(仮訳)」(p.332-334)
			倫理原則、職業倫理	0	看護学概論 1章4節3項 看護職の倫理綱領 (p.37-40)/6章6節2項 倫理的判断に必要な基本的知識(看護倫理で活用する判断基準) (p.167-168) 看護研究 3章1節 人を対象とする研究の倫理 (p.62-69), 3節 研究倫理に関わる指針と考え方 (p.76-81) 臨床看護総論 3章6節3項 医療実践における倫理: 医療者としての責務と患者の権利 (p.157-158) 看護管理 5章1節 看護組織の活動と倫理 (p.160-168)

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
1 看護の基本となる概念	D 看護における倫理	3	患者の権利と擁護	2	看護学概論 1章6節1項 看護に対する社会の要望と期待 (p.57-58) / 6章2節 看護倫理とは (p.153-154), 6節2項 倫理的判断に必要な基本的知識 (看護倫理で活用する判断基準) (p.170-171) / 資料「患者の権利章典 (アメリカ病院協会, 1973年)」 (p.335) 基礎看護技術Ⅰ 1章4節5項 ベイシエントアドボカシーに基づく活動 (p.49-50) 看護研究 3章1節1項 人を対象とする研究の倫理原則 (p.63-69) 臨床看護総論 3章6節3項 医療実践における倫理: 医療者としての責務と患者の権利 (p.157-158)
			倫理的葛藤と対応	0	看護学概論 6章4節 道徳的ジレンマと倫理的課題 (p.157-162), 6節 倫理的課題への対応 (p.164-177)
2 看護の展開	A 対象との関係の形成	4	信頼関係	2	看護学概論 7章1節2項 患者と看護師のコミュニケーション (p.185-186) 基礎看護技術Ⅰ 1章1節 コミュニケーション技術 (p.26-35)
			援助関係	1	看護学概論 7章2節 支援者, 代弁者としての役割 (p.190-191), 3節 学習支援者およびカウンセラーとしての役割 (p.191-193) 基礎看護技術Ⅰ 1章1節2項 看護学でコミュニケーションを学ぶ意義 (p.26-27)
	B 基盤となる思考過程	4	根拠に基づいた看護 (EBN)	1	看護学概論 1章2節4項 エビデンスに基づく看護 (p.31-32) / 7章4節1項 EBNの考え方に基づいた看護師の臨床判断モデル (p.194-195) 看護研究 1章1節5項 科学的根拠に基づく実践 (EBP) / 科学的根拠に基づく看護 (EBN) に欠かせないもの (p.18-20) 臨床看護総論 3章7節1項 臨床看護を学ぶための理論 (p.163)
			クリティカル・シンキング	2	看護学概論 8章2節1項 看護過程展開のための主要な概念を正確に理解する (p.202) 基礎看護技術Ⅰ 1章5節2項 患者と家族のセルフケアを支援する看護活動 (p.51-59) 看護研究 1章1節4項 plus a 「批判的思考」 (p.18) / 2章3節 論文クリティーク (p.50-60)
			問題解決過程	1	看護学概論 7章4節 ケア提供者としての役割 (p.193-195) / 8章 看護過程 (nursing process) (p.197-204) 看護研究 1章1節4項 看護実践と看護研究 (p.17-18) 臨床看護総論 1章4節1項 臨床判断プロセスの詳細 (p.18-19)
	C 看護における連携と協働	2	看護職間の連携と協働	0	看護学概論 11章1節1項 看護の継続性とは (p.264-265), 2項 退院支援・退院調整と看護の継続性を担う取り組み (p.266-270)
			多職種間の連携と協働	2	看護学概論 11章2節2項 多職種連携・協働と看護師の役割 (p.270-273) 臨床看護総論 3章6節1項 多職種の連携と協働が必要なこと (p.153-154) 看護管理 2章6節3項 多職種との協働の方法 (p.67-70)
チームでの活動			0	看護学概論 11章2節2項 多職種連携・協働と看護師の役割 (p.271-272) 臨床看護総論 3章1節3項 チーム医療の機会 (p.105-108), 5節4項 病棟を例にした看護師の仕事: チームで行う看護 (p.150-151), 6節1項 多職種の連携と協働が必要なこと (p.153-154)	

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保障制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論 / 地域在宅看護論

看護の統合と実践

目標Ⅱ 基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
3 看護における基本技術	A コミュニケーション	5	コミュニケーションの目的と構成要素	0	看護学概論 7章1節1項 コミュニケーション過程の構成要素 (p.184-185) 基礎看護技術Ⅰ 1章1節 コミュニケーション技術 (p.26-35)
			コミュニケーションの基本的な技法	1	看護学概論 7章1節3項 コミュニケーション過程に必要な看護師の能力 (p.186-187) 基礎看護技術Ⅰ 1章2節 看護場面での効果的なコミュニケーション技術 (p.35-38), 4節1項 援助過程とコミュニケーション (p.44-46)
			コミュニケーションに障害のある人々への対応	4	基礎看護技術Ⅰ 1章1節6項 言語的コミュニケーション (p.29-31)

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
3 看護における 基本技術	B 学習支援	4	学習に関わる 諸理論	0	基礎看護技術Ⅰ 1章5節4項 看護における指導技術 (p.61-63) / 3章3節 ゴードンの11の機能的健康パターン (p.115-130) セルフマネジメント 1章1節3項「指導型」の教育から「学習援助型」の教育へ (p.17-19), 4項「指導型」と「学習援助型」の考え方 (p.19) / 3-1章1節 成人教育学の基本的な考え方 (p.44), 2節 成人教育の特徴 (p.44-47)
			学習支援の方法 と媒体	2	看護学概論 7章3節 学習支援者およびカウンセラーとしての役割 (p.191-193) 基礎看護技術Ⅰ 1章5節2項 患者と家族のセルフケアを支援する看護活動 (p.51-59), 6節 カウンセリング (p.64-72)
			学習支援プロ セス	2	基礎看護技術Ⅰ 1章5節1項 看護における教育的支援 (p.51), 4項 看護における指導技術 (p.61-63)
	C 看護過程	6	情報収集	4	基礎看護技術Ⅰ 2章2節 情報の収集 (p.76-79), 3節4項 アセスメントの例 (事例紹介) (p.81-94) / 8章2節 事例を用いた記録方法と看護計画 (p.403-428)
			アセスメント	1	看護学概論 8章2節1項 看護過程展開のための主要な概念を正確に理解する (p.201-203), 2項 看護診断の優先順位のつけ方 (p.203) 基礎看護技術Ⅰ 2章3節 アセスメント (p.79-94) / 8章2節 事例を用いた記録方法と看護計画 (p.403-428)
			計画	0	基礎看護技術Ⅰ 2章5節 看護計画 (p.95-97) / 8章2節 事例を用いた記録方法と看護計画 (p.403-428)
			実施	0	基礎看護技術Ⅰ 2章6節 実施 (p.98) / 8章2節4項 実施・評価 (p.427-428)
			評価	1	基礎看護技術Ⅰ 2章7節 評価 (p.98) / 8章2節4項 実施・評価 (p.428)
	D 看護業務に関 する情報	0	看護業務に関する 情報の種類	0	基礎看護技術Ⅰ 2章2節1項 情報源 (p.77), 2項 情報の種類 (p.77)
			看護業務に関する 情報の記録・ 報告・共有	0	基礎看護技術Ⅰ 2章8節 看護記録の作成と管理 (p.98-101)
	E フィジカルア セスメント	11	看護における フィジカルア セスメントの意義	0	基礎看護技術Ⅰ 2章3節3項 フィジカルアセスメントとは何か (p.80-81) / 8章1節 フィジカルアセスメントを活用する (p.402-403)
			問診の基本	0	基礎看護技術Ⅰ 2章2節3項 情報の収集方法 (p.77-78) / 4章3節 問診, 視診 (p.136-139)
			身体診察 (視診、触診、聴 診、打診)の基本	2	基礎看護技術Ⅰ 4章3節 問診, 視診 (p.136-139), 4節 触診, 打診, 聴診 (p.140-144)
			全身の診察 (全身の観察、 バイタルサイン)	2	基礎看護技術Ⅰ 4章5節 バイタルサインの測定 (p.145-167)
			系統別のフィ ジカルアセ スメント	7	基礎看護技術Ⅰ 5章 系統別のフィジカルアセスメント (p.170-342)
	F 感染防止対策	13	感染の成立と 予防	1	基礎看護技術Ⅱ 4章1節 感染予防の意義 (p.114), 3節 感染症を成立させる要素と成立過程 (p.118-123), 4節 感染予防のための援助方法 (p.124-126), 5節 感染症を予防するための技術 (p.126-139)
			標準予防策 (スタンダード プリコーショ ン)と感染経 路別予防策	0	基礎看護技術Ⅱ 4章4節 感染予防のための援助方法 (p.124-126)
			手洗い、消毒、 滅菌法、無菌 操作	8	基礎看護技術Ⅱ 4章5節 感染症を予防するための技術 (p.126-139)
			感染性廃棄物 の取り扱い	1	基礎看護技術Ⅱ 4章7節 医療廃棄物の取り扱い (p.143-145) / 13章7節1項 感染予防 (医療廃棄物の取り扱い) (p.411-412)

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所		
3 看護における 基本技術	F 感染防止対策	13	感染拡大の防 止の対応	3	基礎看護技術Ⅱ 4章6節2項 感染症発生時の対応策 (p.141-142)		
			G 安全管理 (セーフティマ ネジメント)	6	医療安全の概念	1	基礎看護技術Ⅱ 3章1節 医療安全の意義と確保 (p.84-90)
					誤薬の予防と 対策	0	基礎看護技術Ⅱ 3章2節5項 誤薬の予防策 (p.94-95) 医療安全 5章2節 誤薬と与薬事故：分析と対策 (p.143-155)／ 6章2節2項 在宅看護における医療事故と対応 (p.200-201)
	転倒・転落の 予防と対策	2			基礎看護技術Ⅱ 3章2節2項 転倒・転落の予防策 (p.90-91) 医療安全 5章5節 転倒転落：分析と対策 (p.161-171)／6章2 節3項 在宅看護における介護事故とその対応 (p.201-203)／8章 4節1項 環境調整技術に伴うリスクと安全 (p.256-257)		
	チューブ・ラ イントラブル の予防と対策	0			基礎看護技術Ⅱ 3章2節3項 外傷、チューブ・ライントラブルの 予防策 (p.91-93) 医療安全 5章11節 チューブ類のトラブル：分析と対策 (p.185-190)		
	針刺しの予防 と対策	3			基礎看護技術Ⅱ 3章3節2項 感染予防策 (p.107)／4章6節3項 医療事故の予防と事故後の対応 (p.142-143) 医療安全 5章4節 針刺し：分析と対策 (p.158-160)		
	H 安楽の確保	10	安楽の概念	0	基礎看護技術Ⅱ 2章1節 安楽の意義 (p.44-45)		
			ボディメカニ クスの原理と 看護実践への 活用	2	基礎看護技術Ⅱ 3章3節1項 ボディメカニクス (p.97-106)		
			安楽な姿勢・ 体位の保持	4	基礎看護技術Ⅱ 2章4節 安楽な体位 (p.51-61)		
			安楽を提供す るためのケア	4	基礎看護技術Ⅱ 2章3節3項 身体的な援助 (p.47-49)、4項 精 神的な支援 (p.49-51)、5節 安楽を確保する方法 (p.62-80)／11章 3節 電法 (p.320-322)、4節 電法の実際 (p.323-329)		
			安楽を保つた めの療養環境 の調整	0	基礎看護技術Ⅱ 1章2節 環境を整える技術 (p.30-39)／2章3 節2項 医療環境の調整 (p.47)、5節3項 かゆみの緩和 (p.76)		
	I 終末期のケア	4	終末期の患者 のケア	1	基礎看護技術Ⅱ 16章4節1項 心理的ケア (p.478-479)、2項 身体的ケア (p.479-481)、5節1項 臨終前の身体的変化とケア (p.481-482)		
			終末期の家族 のケア	1	基礎看護技術Ⅱ 16章4節1項 心理的ケア (p.478-479)、6節2 項 遺族への関わり (p.485-487)		
			死亡後のケア	1	基礎看護技術Ⅱ 16章6節1項 死後のケア (p.483-485) 緩和ケア 8章5節 臨終後のケア (p.294-296)		
	4 日常生活援助 技術	A 環境	5	療養環境の アセスメント	0	基礎看護技術Ⅱ 1章3節 療養環境のアセスメント (p.39-40)	
療養環境の 調整と整備				5	基礎看護技術Ⅱ 1章2節 環境を整える技術 (p.30-39)、3節 療 養環境のアセスメント (p.39-40)		
B 食事と栄養		10	健康な食生活と 食事摂取基準	2	基礎看護技術Ⅱ 5章3節1項 栄養素 (p.155)、2項 食事摂取基 準 (p.155)、4項 栄養素の摂取量 (p.157-160) 臨床栄養学 2章2節 日本人の食事摂取基準 (2020年版) (p.71- 94)／3章3節 人生各期における健康生活と栄養 (p.110-135)		
			治療食、療養食	1	基礎看護技術Ⅱ 5章3節6項 病院食 (p.161-162) 臨床栄養学 4章 療養生活と栄養 (p.139-164)／5章 疾患別の 栄養食事療法 (p.167-201)		
			食事と栄養に 影響する要因	0	基礎看護技術Ⅱ 5章2節 食事に関する生理学的メカニズム (p.149- 154) 臨床栄養学 1章3節4項 食事調査 (p.53-54)／2章2節5項 対象 特性と留意点 (p.79-80)、6項 生活習慣病とエネルギー・栄養素と の関連 (p.81-83)		
			食事と栄養の アセスメント	3	基礎看護技術Ⅱ 5章4節 栄養状態のアセスメント (p.163-164) 臨床栄養学 1章3節 栄養アセスメント (p.47-54)		
			食事摂取の自 立困難な人へ の援助	0	基礎看護技術Ⅱ 5章5節 食事・栄養に関する援助の実際 (p.164-174)		

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と
社会保障制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論
在宅看護論

看護の統合と実践

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所	
4 日常生活援助 技術	B 食事と栄養	10	嚥下障害のある人への援助	1	基礎看護技術Ⅱ 5章5節2項 経口摂取の援助 (p.167) 臨床栄養学 4章3節 嚥下障害のある人のための食事 (p.153-159)	
			経管・経腸栄養法	2	基礎看護技術Ⅱ 5章5節3項 経管栄養の援助 (p.169-173) 臨床栄養学 4章4節 経口摂取できない患者のための栄養管理 (p.160-163)	
			経静脈栄養法	1	基礎看護技術Ⅱ 5章5節4項 経静脈栄養法 (p.173-174) 臨床栄養学 4章4節 経口摂取できない患者のための栄養管理 (p.163-164)	
	C 排泄	8	排泄に影響する要因	0	基礎看護技術Ⅱ 6章1節 排尿・排便の意義 (p.176), 4節 排尿・排便障害の種類 (看護診断) (p.180-183)	
			排泄のアセスメント	2	基礎看護技術Ⅱ 6章3節 排尿・排便のニーズのアセスメント (p.178-180)	
			自然な排泄を促す援助	0	基礎看護技術Ⅱ 6章5節5項 自然排尿・排便を促す方法 (p.193-194)	
			トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	0	基礎看護技術Ⅱ 6章5節3項 ポータブルトイレ, トイレでの援助 (p.189-191)	
			床上での排泄の援助	1	基礎看護技術Ⅱ 6章5節1項 床上での排尿・排便の援助 (p.183-186)	
			自然な排泄が困難な人への援助	3	基礎看護技術Ⅱ 6章5節6項 導尿 (p.194-197), 7項 浣腸 (p.198-199), 8項 摘便 (p.200-201)	
			尿失禁・便失禁のある人への援助	2	基礎看護技術Ⅱ 6章5節2項 尿失禁・便失禁のある患者のおむつを用いた援助 (p.187-189)	
	D 活動と運動	6	活動と運動に影響する要因	0	基礎看護技術Ⅱ 7章2節 活動・運動の生理学的メカニズム (p.204-208), 3節3項 活動・運動を阻害する要因 (p.209-210)	
			活動と運動のアセスメント	1	基礎看護技術Ⅱ 7章3節 活動・運動のニーズのアセスメント (p.208-211)	
			活動と運動を促す援助	5	基礎看護技術Ⅱ 7章5節 活動・運動を支援する援助の実際 (p.212-238)	
	E 休息と睡眠	6	休息と睡眠に影響する要因	1	基礎看護技術Ⅱ 8章2節 休息・睡眠の生理学的メカニズム (p.241-247), 3節2項 睡眠のニーズ (p.248-249)	
			休息と睡眠のアセスメント	1	基礎看護技術Ⅱ 8章3節 休息・睡眠のニーズのアセスメント (p.248-249), 4節 休息・睡眠の障害 (看護診断) (p.249-251)	
			休息と睡眠を促す援助	3	基礎看護技術Ⅱ 8章5節 休息・睡眠を促す援助の実際 (p.251-253)	
	F 清潔と衣生活	5	清潔と衣生活に影響する要因	0	基礎看護技術Ⅱ 9章1節 清潔の意義 (p.256-257), 2節 皮膚・粘膜のメカニズム (p.258-259), 3節 清潔行為とその影響 (p.260-263), 4節 清潔のニーズ (p.263), 5節 清潔のセルフケアに影響を与える要因 (p.263-265)	
			清潔と衣生活のアセスメント	0	基礎看護技術Ⅱ 9章6節 身体各部のアセスメント (p.265), 7節 清潔援助技術に関する看護診断 (p.265)	
			清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	3	基礎看護技術Ⅱ 9章8節 清潔の援助方法 (p.265-285)	
	5 診療に伴う看護技術	A 呼吸、循環、体温調整	12	呼吸・循環・体温調整のアセスメント	3	基礎看護技術Ⅱ 10章3節 呼吸のニーズに関するアセスメント (p.290-293) / 11章3節 図11-4「アセスメントから電法の方法決定, 評価への流れ」 (p.321)
				呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	0	基礎看護技術Ⅱ 10章5節1項 効率的な呼吸方法 (p.294-297)
血圧・血流を保持する姿勢				0	基礎看護技術Ⅱ 2章4節4項 体位と生理学的要素との関係 (p.52-55) / 7章2節2項 体位変化とバイタルサイン (p.205-207)	
酸素吸入の適応と方法				4	基礎看護技術Ⅱ 10章5節5項 酸素療法 (p.303-312), 6項 人工呼吸 (p.312-313)	

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
5 診療に伴う看護技術	A 呼吸、循環、体温調整	12	口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法	2	基礎看護技術Ⅱ 10章5節4項 吸引 (p.302-303) / 14章4節3項 吸引 (p.443-446)
			排痰法の適応と方法	2	基礎看護技術Ⅱ 10章5節2項 痰を喀出させる方法 (p.297-301)
			体温調整のための方法	1	基礎看護技術Ⅱ 11章3節 電法 (p.320-322), 4節 電法の実際 (p.323-329)
	B 皮膚・創傷管理	12	創傷の治癒過程	3	基礎看護技術Ⅱ 12章2節3項 創傷治癒の過程と形成 (p.334-337)
			創傷のアセスメント	1	基礎看護技術Ⅱ 12章2節 創傷の分類と治癒過程 (p.333-337), 3節1項 スキンケア (p.337-338), 2項 創傷処置 (p.339-342)
			洗浄、保護、包帯法	5	基礎看護技術Ⅱ 12章3節2項 創傷処置 (p.340-342), 3項 包帯法 (p.342-346) 臨床看護総論 3章4節4項 創傷処置 (p.133-134)
			褥瘡の予防と治癒の促進	3	基礎看護技術Ⅱ 12章4節6項 褥瘡予防のケア (p.350-352), 7項 褥瘡発生時のケア (p.352)
	C 与薬	11	与薬における看護師の役割	0	基礎看護技術Ⅱ 13章1節 与薬とは (p.356), 2節 薬物療法と看護 (p.356-359), 4節1項 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 (p.366) 臨床看護総論 3章4節1項 薬物療法 (p.131-132)
			薬剤の種類と取り扱い方法	3	基礎看護技術Ⅱ 13章3節6項 薬剤の種類 (p.363-365), 4節 与薬のための援助技術 (p.366-375)
			与薬方法と効果の観察	8	基礎看護技術Ⅱ 13章4節2項 与薬法 (p.366-375), 5節 注射のための援助技術 (p.375-403)
			与薬の副作用(有害事象)の観察	0	基礎看護技術Ⅱ 13章4節2項 与薬法 (p.366-375)
	D 輸液・輸血管理	10	輸液・輸血の種類と取り扱い方法	6	基礎看護技術Ⅱ 13章5節4項 注射の実際 (p.395-403), 6節 輸血のための援助技術 (p.403-410) 臨床看護総論 3章4節2項 輸液療法 (p.132)
			輸液・輸血の管理方法	1	基礎看護技術Ⅱ 13章5節4項 注射の実際 (p.392-403), 6節 2項 輸血の実際 (p.405-410)
			輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	2	基礎看護技術Ⅱ 13章5節4項 注射の実際 (p.399), 6節3項 輸血の副作用 (p.410)
	E 救命救急処置	11	生命の危機的状況のアセスメント	2	基礎看護技術Ⅱ 15章2節 救急時における看護師の役割 (p.453-454)
一次救命処置<BLS>			5	基礎看護技術Ⅱ 15章3節 一次救命処置 (p.454-463) 臨床看護総論 3章4節8項 救急蘇生法 (p.136-137)	
止血法			4	基礎看護技術Ⅱ 15章4節 ファーストエイド (p.464-466)	
F 生体機能のモニタリング	17	診察・検査時の看護師の役割	0	基礎看護技術Ⅱ 14章1節2項 検査における看護師の役割 (p.416)	
		検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髄液)	5	基礎看護技術Ⅱ 14章1節3項 検査の種類と実施時の注意点 (p.417), 3節7項 尿・便・喀痰検査 (p.430-432), 8項 血液検査 (p.432-434), 9項 穿刺法 (p.434-439)	
		生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	8	基礎看護技術Ⅱ 14章1節3項 検査の種類と実施時の注意点 (p.417), 3節1項 単純X線撮影検査 (p.422-423), 2項 超音波検査 (p.423), 3項 CT検査 (p.424), 4項 MRI検査 (p.425-426), 5項 内視鏡検査 (p.426-427), 6項 心電図検査 (p.427-429), 10項 核医学検査 (p.440), 11項 呼吸機能検査 (p.440-441)	

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と
社会保障制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論
在宅看護論

看護の統合と実践

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
5 診療に伴う看護技術	F 生体機能のモニタリング	17	経皮的動脈血酸素飽和度(SpO ₂)の測定、血糖測定	4	基礎看護技術Ⅱ 14章3節8項 血液検査 (p.434), 4節4項 ME機器の取り扱いとモニタリング (p.446-447)
			モニタリング機器の取り扱い	0	基礎看護技術Ⅱ 14章4節4項 ME機器の取り扱いとモニタリング (p.446-449)

目標Ⅲ

保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	出題 数※	小項目 (キーワード)	出題 数※	ナーシング・グラフィカ 単行本『家族看護学』該当箇所
6 看護の役割と機能	A 看護の場に応じた活動	0	在宅における看護活動	0	看護学概論 10章3節2項 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能 (p.246), 4節 多職種で取り組む地域包括ケアシステム (p.247-249) 地域療養を支えるケア 3章1節3項 在宅看護の役割・機能 (p.69), 4項 在宅看護活動の特徴 (p.69-71)
			医療施設における看護活動	0	看護学概論 10章2節2項 医療サービスの場 (p.243-244)
			保健施設と福祉施設における看護活動	0	看護学概論 10章2節1項 保健サービスの場 (p.240-243), 3項 福祉サービスの場 (p.244-245)
	B 保健・医療・福祉の連携と継続看護	1	保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	0	看護学概論 10章3節2項 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能 (p.246) 臨床看護総論 3章6節2項 医療チームにおける各職種の役割 (p.154-157)
			保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	1	看護学概論 10章4節 多職種で取り組む地域包括ケアシステム (p.247-251)
			施設内・施設間における継続看護	0	看護学概論 11章1節1項 看護の継続性とは (p.264-265), 2項 退院支援・退院調整と看護の継続性を担う取り組み (p.266-270)